アッシャー家の末裔（1928）

LA CHUTTE DE LA MAISON USHER

メディア 映画
ジャンル ホラー
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 48分
初公開日 1929/07
公開情報 劇場公開

【解説】

“映画は視覚的な詩”と定義した文人肌のエプスタンが、２０年代半ばのアヴァンギャルド派の作品に啓発され作った、Ｅ・Ａ・ポー原作の映画化。同作の他に同じくポーの『楕円形の肖像』『リジイア』の内容が加味され、非常にフォトジェニックな独自の表現境地に達している。

ある老紳士を乗せた馬車が妖気漂う沼地を往く。目指すアッシャー邸付近のその荒廃した様子にただならぬ予感を抱く紳士。当主ロデリックは彼の友人だったが、妻マデリーンの肖像を毎日憑かれたように描いていた。画が生気を帯びるほどに衰弱してゆくマデリーン。風が吹き込み床に枯葉が舞い散る広間の片隅で、友に本を読み聞かせるロデリックはふと夢想に駆られ、昏睡に陥る。そして、衝動的に絵筆を取り、再びマデリーンを描き始める。彼女の顔が瞬間、干涸びた骸に見え、夫の眼が爛々と燃える。絵の完成と同時に妻は倒れた。慌てて友人が医者を呼びに行くが、既に彼女はこと切れていた。彼らは葬儀のため、墓地に赴く。ロデリックには妻の死が信じられなかった。亡き妻の弧影に支配されたような館で、嵐の夜、彼はある霊感に囚われる。野辺に置かれた棺の中から純白のヴェールが流れ出であたりをさまよい、続いて妻が蓋を開けて立つ。そして、彼のもとへ歩み寄る。ロデリックが彼女を抱いたその時、館の随所から妖火があがり、友に引きずられ外へ逃れた彼は、崩れ落ちた館の跡に、燐光が飛び交うのをみた……。若きブニュエルが製作に協力した、前衛的というより純粋映像詩的な、サイレント映画が達成した頂点の一つに数えられる作品だ。

【クレジット】

監督 ジャン・エプスタイン Jean Epstein
原作 エドガー・アラン・ポー Edgar Allan Poe
脚本 ジャン・エプスタイン Jean Epstein
撮影 ルスカ
出演 シャルル・ラミ
ジャン・ドビュクール Jean Debucourt
マルグリート・ガンス
ピエール・オットー
アルマ

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.